

○：各Unitにおいて評価が可能な領域(すべての○を評価しなければならないということではありません。各校の到達目標にあわせて、評価の場面を精選することが大切です。場面を選定する一例として、下記の●を示しました。)
 ●：記録に残す評価を行うことを推奨する領域(学期ごとに「5領域3観点」を網羅するように選択しています。)

5年		聞くこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	読むこと*	書くこと*
1学期	Unit 1	○	○	○		●
	Unit 2	●	●			
	Unit 3	○	○	●	●	
2学期	Unit 4	○	●		○	
	Unit 5	●		○	○	
	Unit 6	○	(●)※1	●	○	●
	Unit 7	○	○		●	
3学期	Unit 8	●	●		○	
	Unit 9	○		●	●	●

* 小学校学習指導要領に示される[読むこと]の目標「イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」と[書くこと]の目標「イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。」についての評価を指しています。(ただし、5年Unit 1の[書くこと]に関しては例外です。Unit 1では自分や友達の名前をアルファベットを用いて書くことが目標であるので、学習指導要領に示される[書くこと]の目標アの「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。」に当てはまります。)

[読むこと]の目標「ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」、[書くこと]の目標「ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。」については、Alphabet Time(5年)やFun Time「文字遊び」(5・6年)、Sounds and Letters(5・6年)での十分な学習と形成的評価を重ねた上で、学期に1回程度ペーパーテスト等を用いて評価することができます。

※1 ゴール活動を「やり取り」のスタイルにして、[話すこと[やり取り]]の記録に残す評価を行うことも可能

6年		聞くこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	読むこと*	書くこと*
1学期	Unit 1	○		○		
	Unit 2	○		●	○	●
	Unit 3	●	●		●	
2学期	Unit 4	○	(●)※1	○	○	○
	Unit 5	●		○	○	
	Unit 6	○	(●)※2	●	●	○
	Unit 7	○		(●)※3	○	●
3学期	Unit 8	○	(●)※4	●	○	●
	Unit 9	●		(●)※5	●	

※1～5について：6年のJump! You can do it!は発表形式のゴール活動を多く取り入れています。[話すこと[やり取り]]についても、1年間で複数回パフォーマンス評価を行う場合は、StepのLet's try.を評価場面としたり、ゴール活動を発表形式からやり取りの形式に置き換えて行ったりすることも可能です。※1～5は、具体的な場面設定の案を示しています。

※1 ゴール活動は発表だが、Let's try.をやり取りの記録に残す評価の場面とすることも可能

※2 ゴール活動を「やり取り」のスタイルにして、[話すこと[やり取り]]の記録に残す評価を行うことも可能

※3 Unit 6のゴール活動を[話すこと[やり取り]]の評価にした場合、Unit 7のゴール活動を[話すこと[発表]]の記録に残す評価の場面とすることも可能

※4 ゴール活動を「やり取り」のスタイルにして、[話すこと[やり取り]]の記録に残す評価を行うことも可能

※5 Unit 8のゴール活動を[話すこと[やり取り]]の評価にした場合、Unit 9のゴール活動を[話すこと[発表]]の記録に残す評価の場面とすることも可能

●シート②【5年】「教科書と評価の関連および評価の流れ」

20200616作成 光村図書

形成的評価(児童の学習の過程を把握し、その後の学習を促す評価) 総括的評価(指導の最後に、学習の成果を総合的に把握する評価)

時間	単元の流れ	聞くこと			話すこと [やり取り]			話すこと [発表]			読むこと 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や 基本的な表現の意味の理解			書くこと		
		《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》
1	Hop! [導入] ↓															
2~5	Step 1, 2 [展開]形成的評価 総括に向けて評価の記録も残す ↓	◆Let's listen.			◆Let's play.	◆Let's try.		◆Let's play.	◆Let's try.		◆Let's play. ※ピクチャーカードや巻末 カードを使う活動の場合				◆Let's write.	
6(~8)	Jump! [まとめ]総括的評価 ／形成的評価(記録に残す評価を 行わない場合)	◆World Tour※1			◆You can do it! パフォーマンス評価			◆You can do it! パフォーマンス評価			◆Let's listen and read. ◆You can do it! ※2			◆You can do it! ※語句や表現を書いた成果物がある場合		
	〈英語の音と文字〉に 関する教材 形成的評価	◇Alphabet Time ◇Fun Time 「文字遊び」											◇Alphabet Time ◇Fun Time 「文字遊び」	◇Alphabet Time ◇Fun Time 「文字遊び」		

※1 Jump!の「World Tour」で《思考・判断・表現》や《主体的に学習に取り組む態度》も含めて総括的に評価を行うことが可能ですが、より正確な評価には、評価テスト案のようなペーパーテストで総括的評価を行います。ただし、その場合でも「World Tour」で複数の単元に渡って、とりわけ《態度》の形成的評価を行いつつ、総括的評価を行うことが重要です。

※2 前段階として、Unitで扱う語彙や表現を音声で十分に慣れ親しませるとともに、ピクチャーカード等を継続的に活用して、語を一つのまとまりとして認識するよう促すことが大切です。また、UnitによってはYou can do it!の成果物を児童同士で読み合わせる活動を行い、「読むこと」の評価を行うことも可能でしょう。

▼複数単元終了後、または学期に1回程度実施する評価

ペーパーテスト※3 [まとめ]総括的評価	評価テスト案 (複数Unitのまとめ) ☆1									評価テスト案 (複数Unitのまとめ) ☆2					英語の音と文字 に関するテスト ☆4	評価テスト案 (複数Unitのまとめ) ☆3	
	英語の音と文字に 関するテスト ☆4														英語の音と文字に 関するテスト ☆4		

※3 学習指導書専用ウェブサイトからダウンロードしてご使用いただけます。教科書の内容に完全準拠しており、授業で十分に学習したことをふまえて無理なく取り組むことができるようになっていますので、総括的評価の素材としてお使いいただけます。各Unitでの学習および評価と、ペーパーテストのつながりについては、下記☆2~5をお読みください。

☆1 Unitの最初の活動であるHop!のStoryでは、動画を参考にしながら話を聞いて、概要を捉えようとする取り組みます。その後、Step 1, 2の Let's listen., Jump!のWorld Tour等を通じて、簡単な語句や基本的な表現、具体的な情報の聞き取りなどを行います。こうした学習の積み重ねをふまえて、テストでは、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることや、具体的な情報の聞き取りに挑戦し、その力を評価します。使用語句および表現は、教科書で聞いたり話したりして十分に学習したものに限りします。

☆2 Jump!のLet's listen and read.とその前段階としての活動を通じて培った、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読む力を評価します。使用語句および表現は、教科書で聞いたり話したり、読んだりして十分に学習したものに限りします。

☆3 StepのLet's write.や、Jump!のYou can do it!のポスター等の作成を通じて培った、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について例文を参考に書いたりする力を評価します。使用語句および表現は、教科書で聞いたり話したり、書き写したりして十分に学習したものに限りします。

☆4 英語の音と文字に関して、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域について、Alphabet Time, Fun Time「文字遊び」、Sounds and Lettersの学習を通じて培った力を評価します。

下記の評価・評定のための素材を組み合わせていただくことも可能です。

評価テスト案(1Unitごと)※3		☆1				☆2				☆3		
-------------------	--	----	--	--	--	----	--	--	--	----	--	--

●シート②【6年】「教科書と評価の関連および評価の流れ」

20200616作成 光村図書

形成的評価(児童の学習の過程を把握し、その後の学習を促す評価) 総括的評価(指導の最後に、学習の成果を総合的に把握する評価)

時間	単元の流れ	聞くこと			話すこと [やり取り]			話すこと [発表]			読むこと 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や 基本的な表現の意味の理解			書くこと		
		《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》	《知識》《技能》	《思考・判断・表現》	《態度》
1	Hop! [導入] ↓															
2~5	Step 1, 2 [展開] 形成的評価 総括に向けて評価の記録も残す ↓	◆Let's listen.			◆Let's play.	◆Let's try.		◆Let's play.	◆Let's try.		◆Let's play. ※ピクチャーカードや巻末 カードを使う活動の場合			◆Let's write.		
6(～8)	Jump! [まとめ] 総括的評価 / 形成的評価(記録に残す評価 を行わない場合)	◆World Tour※1			◆You can do it! パフォーマンス評価			◆You can do it! パフォーマンス評価			◆Let's listen and read. ◆You can do it! ※2			◆You can do it! ※語句や表現を書いた成果物がある場合		
	〈英語の音と文字〉に 関する教材 形成的評価	◇Fun Time 「文字遊び」												◇Fun Time 「文字遊び」	◇Fun Time 「文字遊び」	

※1 Jump!の「World Tour」で《思考・判断・表現》や《主体的に学習に取り組む態度》も含めて総括的に評価を行うことが可能ですが、より正確な評価には、評価テスト案のようなペーパーテストで総括的評価を行います。ただし、その場合でも「World Tour」で複数の単元に渡って、とりわけ《態度》の形成的評価を行いつつ、総括的評価を行うことが重要です。

※2 前段階として、Unitで扱う語彙や表現を音声で十分に慣れ親しませるとともに、ピクチャーカード等を継続的に活用して、語を一つのまとまりとして認識するよう促すことが大切です。また、UnitによってはYou can do it!の成果物を児童同士で読み合わせる活動を行い、[読むこと]の評価を行うことも可能でしょう。

+

+

▼複数単元終了後、または学期に1回程度実施する評価

ペーパーテスト※3 [まとめ] 総括的評価	評価テスト案 (複数Unitのまとめ) ☆1							評価テスト案 (複数Unitのまとめ) ☆2				英語の音と文字 に関するテスト ☆4	評価テスト案 (複数Unitのまとめ) ☆3			
													英語の音と文字 に関するテスト ☆4			

※3 学習指導書専用ウェブサイトからダウンロードしてご使用いただけます。教科書の内容に完全準拠しており、授業で十分に学習したことをふまえて無理なく取り組むことができるようになっていますので、総括的評価の素材としてお使いいただけます。各Unitでの学習および評価と、ペーパーテストのつながりについては、下記☆2～5をお読みください。

☆1 Unitの最初の活動であるHop!のStoryでは、動画を参考にしながら話を聞いて、概要を捉えようとする取り組みます。その後、Step 1, 2の Let's listen., Jump!のWorld Tour等を通じて、簡単な語句や基本的な表現、具体的な情報の聞き取りなどを行います。こうした学習の積み重ねをふまえて、テストでは、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることや、具体的な情報の聞き取りに挑戦し、その力を評価します。使用語句および表現は、教科書で聞いたり話したりして十分に学習したものに限りま。

☆2 Jump!のLet's listen and read.とその前段階としての活動を通じて培った、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読む力を評価します。使用語句および表現は、教科書で聞いたり話したり、読んだりして十分に学習したものに限りま。

☆3 StepのLet's write.や、Jump!のYou can do it!のポスター等の作成を通じて培った、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について例文を参考に書いたりする力を評価します。使用語句および表現は、教科書で聞いたり話したり、書き写したりして十分に学習したものに限りま。

☆4 英語の音と文字に関して、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域について、Fun Time「文字遊び」、Sounds and Lettersの学習を通じて培った力を評価します。

下記の評価・評定のための素材を組み合わせていただくことも可能です。

評価テスト案(1Unitごと)※1		☆1							☆2				☆3			
-------------------	--	----	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	----	--	--	--